

■■■ 日本移民史と現在のブラジルの状況（1） ■■■

◆国家間を移動する子どもたち

私たちは「ボーダレス」「グローバリゼーション」といった言葉を普段から使っています。それは、海外旅行が簡易にできることや、身の回りにあふれる海外製品を手にとるときに実感できます。世界中の人々との結びつきが経済的にも文化的にも緊密になる一方で、数多くの外国人の方々が日本に渡り生活をしています。

なかでも、ブラジルから渡ってきた日系ブラジル人は1970年代以降、急速に増加し、社会生活、就労、出入国管理といった面から注目されてきました。そして、かれらの滞在が長期化するにつれ、教育についても考えられるようになりました。こうした状況を一人一人の子どもたちに注目したとき、国を渡り見知らぬ場所で生活することは、「引っ越し」「移動」といった一言では説明できない人生の一大転機です。子どもたちが生活のなかでその大半を過ごす学校や地域社会では、外国からやってくる子どもたちをどのように見守り育てていくかが手探り状態のなかで模索されています。

私は日系ブラジル人の子どもたちのように、国家間を行き来する子どもたちに対して、「教育」はどのような意味があるのか、どのような効果があるのかを調査しています。これまで日本で行われてきた調査とは、日本へとやってくる理由やその滞在状況について調べるものが多く、日本から帰った後、子どもたちがどうしているのかについての追跡調査はあまり試みられていません。日本において一時的にでも生活した方々とその子どもたちにとって、学校や地域での経験はどのような意味を持っていたのでしょうか。外国からやってきた子どもたちを通じて「教育」を考えることは、すなわち、私たちの教育がいかなる性質の物であり、今後どうしていくべきなのかを考えていく契機でもあります。そこで私は、これまで度々接してきた日系ブラジル人の子どもたちの追跡調査をするため、ブラジルへと渡ってみることにしました。

◆現在のブラジルの状況

私はブラジルのサンパウロで生活をしています。近郊都市圏をあわせると人口一千万人以上、南米最大の都市です。ブラジルは資源大国として、現在BRICsと呼ばれる急成長を遂げている国のひとつです。都市部は拡大を続け生活が便利になる一方で、物価も高く、食費や交通費は日本ともさほど変わりません。私のような学生では日々の生活も大変です。

昨年世界的な不況に煽りを受けて、ブラジルの通貨であるレアルも大きく変動し、わずか数ヶ月で為替レートが数十%も推移しました。世界不況による影響で会社の倒産や、リストラも行われています。ただし、実生活のレベルでは顕在化した様子はありません。その余波がまだ完全には届いていないとも言われています。大波の前の静けさなのかもしれません。

世界不況の問題以前に、日本と同じく経済・所得格差という問題をブラジルは抱えています。高級マンションが林立し、郊外には街の区画を壁で囲い込み限られた住民のみで生活するゲートドコミュニティなど、高所得者層が増加する一方で、最低賃金（日本円で約二万円程度）で働く人々も多く、低所得者層が集まるファベラという地区では犯罪や麻薬といった問題が多発しています。ブラジル政府は世界でも有数の労働者重視の政策を展開していますが、現状の格差問題を是正するには至っていません。物価が日本とさほど変わらない厳しい状況で、経済・所得格差が拡大していくといった問題がみられます。

◆日本移民史からみる出稼ぎとデカセギ

大都市サンパウロは、1900年頃、未だ原始林が残る未開発地のひとつでした。このサンパウロの原始林を切り開き、農作物供給に尽力し、大都市化に寄与したのが日本移民たちです。2008年は日本移民がブラジルに渡って百年となる節目の年であり、ブラジル各地で様々なイベントが行われました。さて日本国内には数多くの日本移民と日系ブラジル人の方々がおられますが、なぜ彼らが再び日本へと渡ったのかを、ここで日本移民史を振り返ることから考えてみたいと思います。

1908年、両政府間の合意のもと、初めての移民が日本の神戸港からブラジルのサントス港へと渡りました。当時、日本では明治維新後の混乱の影響が色濃く、農村部の深刻な不況を誘発させ、各地で一揆が多発しました。ブラジルはポルトガルから独立したものの、国内の未開発地を切り開くための労働力を欲していました。両者の思惑のもと、農業労働者として日本移民はブラジルへと渡りました。日本ではブラジルに渡れば大儲けができると宣伝されており、移民らは「錦衣帰国」を夢見て「出稼ぎ」に渡ったのでした。

ブラジルへ渡った移民らを待ち受けていたのは期間労働者としての過酷な労働でした。計画通り帰国することは叶わなかったものの、数年後には自ら地主となる日本移民も現れます。各地には日本移民が切り開いた移住地が建設され、日本人会、日本語学校、農業組合が各地で組織されました。こうして徐々に生活基盤をつくりあげてきたものの、母国日本において第二次世界大戦が起こります。ブラジルは日本を「敵国」として、移民らの資産を凍結、日本語教育を禁止し、日本移民らが開いた数多くの日本語学校が閉鎖されました。

日本移民らの多くは、ブラジルでの労働は一時的な労働と考えていましたが、第二次世界大戦とその後の混乱を経て、永住を目指す者が徐々に増えてきました。かれらは、農業を拡大し、ブラジル国内での成功を夢見、子どもたちにはポルトガル語を教え、子どもたちを大学へと進学させました。ここに戦後に渡ってきた日本移民も合流し、特に農業分野では品種改良や組合活動により、大成功をおさめます。日本移民の農業組合はブラジルでもトップ企業になりました。

このように、日本移民らとその子孫らは主に農業分野で活躍をしていました。しかし、農業とは日本において「安定」した職業であると考えられていますが、非常に投機的な一面を持ち合わせています。日本移民が主に携わったコーヒの樹は霜が降りると全滅します。青物も他地域が豊作になれば商品はダブつき、腐ってしまいます。ましてや海外からの輸入ものや、輸送面での改善が行われると、自分たちの収穫の問題だけでなく、他地域と競争しなければなりません。一度失敗すれば次の植え付けは借金をする必要があります。柔軟な投資や税制面での優遇がなければ、立ち行かないのが農業です。

こうした農業の難しさが顕在化したのが80年代です。ブラジル国内は政治的に安定せず軍政を経て、建国史上最悪のインフレを発生させました。2000%を超えるインフレにより、朝つけた値段は昼には変わるという事態が発生します。これにより、農業関係や農業組合関係者が中心だった日系社会は大打撃を受け、職を求め日本へと「デカセギ」を選択する人々があられました。

移民百年の式典は日系人だけのイベントではなく、広くブラジル全土で祝賀されました。各種イベントを助けたのは日本政府や日系団体だけでなく、ブラジルの銀行や政府機関からの援助も多大なものとなりました。それは日本移民らの、特に農業面での寄与がブラジル全土で認知されているからです。ブラジルはようやく不況を脱し、経済的な成功を収めつつある一方で、80年代の不況の爪痕は今でも残っています。

(次号へ続く)

■■■グループレッスンのご紹介■■■

毎週、火曜と金曜の夜、7時から8時半までシューズプラザの4階で開かれているBグループを探访しました。

指導者はKFC以外でも教えておられるというベテラン男性の西本さん、助手は養成講座を終えられたばかりのさわやかムードの女性、村中さんです。このクラスは4月にスタートしましたが、学習者の入れ替わりは何度かあり、現在は中国人の男性3人、韓国人の男性1人、フィリピンの男性1人、ベトナム人の女性1人で合計6人です。今日は全員出席でした。

まずウォーミングアップか、最初の30分間は動詞を使っての文章作り、実際に使ったり、応用力をつけるようです。「切ります」「見せます」「のみます」「かきます」などを入れた文を作ります。学習歴によって動詞をかえる配慮があるようでした。文についてその都度、助詞「を」「に」「で」「へ」などが直されました。

「英語をぜんぶわすれました」「魚はまいにちおよぎます」「10円なくしました」など、何か笑いをそそるような例文もありました。

後半は4人と2人に分かれて、2人の支援者がそれぞれのグループにつかれました。

昼間の仕事、勉強のあとで疲れていると思われるのにしっかりと集中している学習者たちでした。支援者の方たちのユーモアや、その場にあった雑談がクラスを楽しくし、学習者をひきつけていると感じました。ますますのクラスの発展を期待します。がんばってください。

(ニュース係 気賀 倭文子)

■■■日本語プロジェクト■■■

◆学習支援に関わって

私がKFCの「学習支援」に関わるようになったのは、2007年の9月からです。

月1回程度の来室となりましたが、今ではすっかり子どもたちにも慣れて、毎回楽しく学習活動をしています。

対象児童はKFC近くの学校に通学している小学生（1年生から6年生）。毎週木曜日4時から途中休憩を挿み約90分の学習をします。（私は男子児童に関わるのが比較的多いです。）活動の内容は主として学校の宿題の「漢字ドリル・計算ドリル」が中心ですが、時には「本読み」や「相談」もします。

休憩時には、ゲーム・カルタ遊び・トランプ遊び等で気分転換をします。

先日の3年生2人の学習を同時に見た時は、休憩時、各自が1枚ずつのトランプのカードを引き、同時に広げ、その2数を掛け、早く答えを出す競走をしました。（お陰で暗算が速くなりました。）この方法は、低学年の場合、加減の練習に使い成功したこともあります。

2月中旬のある木曜日。子どもたちがKFCに来るなり、口ぐちに学校の先生から「今日、新長田付近で刃物を持った男の人がいて、危ないから外出には気をつけなさい。」と聞いたと報告しました。早速、スタッフ会議。学習終了後、スタッフが分散して子どもたちを自宅まで送り届けることになりました。私は「鷹取方面」を担当。二人の子どもたちは自転車で来ていましたが、一緒に帰ることにしました。無事に自宅に送り届け、ほっとひと安心した一日でした。

子どもたちが自由に参加できるKFCの「学習支援」ですが、参加児童が安心して来室し、自宅まで無事帰宅出来る、態勢確立も大切と思いました。

(東野 修明)

KFCで学習ボランティアを始めて約半年。週一回中学生の宿題やテスト勉強の補助を行っています。

ひとくちに中学生と言っても色々な子がいるなあといつも感じます。ばりばりの関西弁で元気に質問してくる子もいれば、理解するまでじっと考える子もいます。それぞれの子どもに合った方法で説明したいと常々思っていました。これはとても難しい作業で、試行錯誤の繰り返しでした。

個人的な話になりますが、この学習ボランティアに参加しようと考えたのは、自分の経験がきっかけになっています。わたしも留学という形で、一年間母国を離れてひとりで暮らしたことがあります。これは自ら望んでいったという点でKFCに来ている子どもたちとは状況が根本的に異なります。しかし伝えたい思いや理解したいことが言語の壁によって阻まれるもどかしさは、少しは共有できるかもしれません。

留学先では、教会のボランティアに関わっていたご夫婦とパートナーファミリーになりました。彼らはいつも、わたしの決して流暢ではない話に辛抱強く耳を傾け、見守ってくれました。親とも教授とも友達とも違うこの関係は、留學生活の大きな支えでした。自分がしてもらってうれしかったことを誰かにできたら、と思い、KFCの活動に半年間携わってきました。

短い期間ではありましたが、ここで話したり、勉強を見たりした子どもたちがみな、元気にそれぞれの場で活躍していくことをこころより願っています。そしてこのような機会をいただいたことに感謝します。

(芝尾 明香)

■■■ 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆ 2月研修会～保護者の声から支援を考える

去る2月14日、上記の研修会を開催しました。出席者は21名で最初はやや緊張感がありましたが、話が進んで行くにつれ時には笑い声が起ころなどしながら終始和やかな雰囲気で行いました。

以下その状況をご報告します。

日時 2009年2月14日(土) 13:30～

場所 デイサービスセンター八ナの会

出席者 KFC理事長 金宣吉

〃 事務局 2名

〃 支援者 12名

生徒保護者 3名

通 訊 者 3名

最初は前淵ジェリーさん、ゴティタンさん、ツカモト サマメ はまこ リリさんの3人の保護者の自己紹介とKFCへの要望等の発表から始まり、その後、支援者の質問に答えていただく形で進められました。

支援者 渡日前に日本の学校制度や教育システムをご存知でしたか。

保護者 日本へ来るまで全く知りませんでした。子どもは小学校に2年間だけ通ってから日本に来たのですが、いきなり4年生に編入することになりびっくりしました。フィリピンは留年制度

があり、日本語がわからない子どもは1年生に入るものと思っていましたから。勉強がある程度理解できてから、進級する方がいいと思います。

フィリピンの教育制度は小学校6年、中学課程がなく、ハイスクールが4年間、大学課程は2年～5年間で、日本と違います。

保護者 私も全く知りませんでした。

最初の頃は日本の習慣や言葉がわからないため子どもも苦労していました。

今一番の問題は子どもが中学2年になりましたが、進学する方向がわからないことです。現在自分の持っている日本語能力で何が出来るかを考えることや能力向上を目指して努力を継続していくことが大変です。

友達同士で交わしている言葉遣いと敬語の区別が出来ているか心配です。KFCの支援者に対してどんな言葉遣いをしているかが気になります。

ペルーも留年制度があります。また学年試験とは別に進級国家試験があり、それに合格しないと上級校(小学校→中学校→高校～)へ進級できません。

ペルー国内で高等教育を受けた優秀な人材が国外へ転出していく状況があります。

国からの支援が少ないため生活水準が低く経済状態も良くありません。

保護者 私も知りませんでした。KFCでは、小学4年生と中学3年生の子どもが学習支援を受けていますが、国語がわからないため苦労しているようです。子どもは漢字が難しく嫌いのようです。

支援者 学校からの連絡事項等は理解できますか。

保護者 重要な書類は翻訳して配布されるので問題ありません。しかしそれ以外のプリントなどでわからないものは多いです。

支援者 日本語が不自由な保護者と子どもの間でコミュニケーションが取りにくいことはありませんか。

保護者 学校のことを聞いても何もないと言います。

支援者 子どもさんは日本語は出来るが保護者の話す言葉は簡単な言葉しか理解できないといった状況があります。

支援者 学校内で喧嘩等が発生したとき、調停のため通訳してくれる人がいますか。

保護者 小学校ではいませんでした。中学では英語通訳をしてくれる方はいます。

保護者 学校内で「いじめ」が時々ありましたが、先生が注意してくれてからはなくなりました。

支援者 「『お母さんが外国人であることがわかると恥ずかしい』と子どもが言うのですがどうしたらいいですか」と、保護者から相談されたことがあります。

保護者 私の子どもも小学校の時は授業参観やいろいろな行事の案内をちゃんと見せてくれましたが、中学生になった途端、見せなくなりました。

金宣吉 日本社会の中に皆と同じでなければ、いけないという風潮があります。日本人の友達に家へ来てもらうようにすることにより、お互いにちがいを理解し合うことが大切ではないでしょうか。その中で自分達の文化・歴史などを理解し合うことが出来ると思います。

国別の経済力等を比較するのではなく、お互いの国の環境・風景などの良いところを見つけ合って理解を深めて欲しいと思います。

子どもさんが母国を蔑視しているようなことがあれば問題です。母国の良いところを子どもさんに話す機会を多く持ってください。保護者が母国が持っているアイデンティティを大切にし、子どもともそのことについて話をするなかで色々な国や人と交わり理解を深めてください。

支援者 進学について保護者はどのように考えておられますか。

保護者 就職のことを考えて日本の高校で教育を受けさせたいと思っています。

もっとたくさん勉強させたいので家庭教師をしてくれる人がいればご紹介ください。

支援者 地域社会で日本語がわからず苦労することはありますか。

保護者 ゴミ出し等について、はじめはわかりませんでした。今は大丈夫です。役所への提出書類等の作成は出来ませんが、支援グループがあり援助してもらっています。

支援者 母国語で助け合うコミュニティなどはありますか。

保護者 あります。しかし自分の生活が精一杯で余り余裕がありません。

金宣吉 色々なご意見が出ましたが、支援者には感謝しています。K F Cでは事業の拡大と充実を計画していますが、N P O団体に対して行政からの予算がなかなか付きません。来年度の活動として5階事務所の前に「子どもスペース」を確保する予定です。そこにおける活動をどうすれば持続できるか検討中です。

子どもさんは学校やK F Cで日本語を勉強していますが、出来ればお母さんも日本語を勉強してください。保護者が学習する姿勢を見せることは子どもにとってもいい影響を与えます。そのためにはどのような支援をすればよいのか考えています。このままでは保護者と子どもさんとの距離が益々広がっていくように思います。どうかお母さん方も勉強をしてください。

——おわりに——

記事提供者

最後に支援者の一人として保護者の方々のK F Cに対するご期待と熱心な子どもたちの姿を見ると、私たちもこれから益々研鑽を重ねていく必要があると痛感しました。 (メーリングリスト係 大道良輝)

◆高校推薦入試対策講座

～面接と作文

今年度も高校推薦入試を受験する中学生のための面接と作文の講座を、韓裕治先生のご協力を得て実施しました。

それぞれの高校のこれまでの面接や作文の内容を参考にして、作文を書いたり、面接の練習を行いました。

2月13日に実施された推薦入試では4名が受験し、うち3名が無事合格することができました。今回残念ながら不合格だった中学生は、3月13日に実施される一般入試を受験することになります。

お忙しい中、何度も足を運んでくださった韓先生には中学生たちも大変感謝しておりました。本当にありがとうございました。

◆新年会開催

学習支援に関わってくださっている方たちで、1月23日(金)にKFC近くのインド料理店「ティフィン」で新年会を行いました。

18名もの方に出席していただき、インド料理のフルコース?とワイン、ビールなどを楽しみながら、学習支援活動の普段の学習についてそれぞれ話し合ったり、旅行の話など様々な話をして交流しました。また手品を披露してくださる支援者の方がいらっしゃったり、皆で歌を歌ったりと盛り上がりました。

今回は、中学3年生の卒業パーティを兼ねたお花見を4月5日に行いますので、ぜひご参加ください。(志岐良子)

■■■ ハナの会 ■■■

◆新年のご挨拶

おはようございます(アンニョンハセヨ)。一日の始まりです。「ねえちゃん、よう来たな。ハハハ、・・・」皆様、笑顔で迎えてくれます。

こんな私でも待っているオモニたちがいる。ああ、今日も休まずに来てよかった。嬉しくなり、自然に笑顔になり、元気をもらっています。

体操、輪投げ、民謡、合唱、カラオケ、花札。いろいろな話、笑って、笑って、楽しく時間まで過ごします。今日一日ありがとう(カムサハムニダ)の言葉に、ボランティアをさせて頂く事に感謝しております。

オモニたちと話をしてほしいな、話を聞いてみたいな、一緒に笑ってみたいなと思う方は、一度遊びに来ませんか?

(ボランティア 朴英子)

◆新年会を終えて

KFCの皆さん、アンニョンハシムニカ?

白い雪より雨が降った今年の冬も、徐々に惜別を告げる時期ですが、皆さんこの冬はお元気に過ごされていますか?

デイサービスセンターハナの会では1月31日、新年会が開催されました。月～金曜日の利用者さま、ご家族の方、KFC理事の方、KEYの皆さん、ハナの会職員、ボランティアの方などが参加して約50人が集まり、楽しい時間を過ごしました。

朝から食事準備のために、忙しく動くスタッフたちの足の動きから始まった新年会は、理事長の新年の挨拶、乾杯、昼食(餅、チャプチェ、チョレギ、蒸し豚、キムチ、マッコリ、みかん、りんご…など)を召し上がりながら、久しぶりに会う方々と近況を伝え合い、談笑しながら楽しい時間を過ごしました。

チャンバラ(チャンの音調)に合わせて始まった、韓国の民謡から韓国の踊り、KEY青年(在日コリアン青年連合)の独唱など、実際に準備しておいたプログラムが進行できないほどに、見て楽しむ新年会ではなく、見せる新年会の雰囲気でも盛り上がり、終わることのないように思われるほどに、盛況な楽しい時間を過ごしました。

新年会を終えてお会いした時、「お疲れじゃないですか?」という質問に、「ぜんぜん!何があったの?」「ストレス発散して元気になった」などの返答を聞いた時は、ハレモニたちの精神力、心意気に今一度頭が下がりました。参席されたお一人お一人が「ほんまにお疲れさん、ほんまに楽しく遊んだ。美味しく食べたで、ありがとう。」という激励のお言葉をくださった時は、

感動の涙が出ました。このような方々のために、もっと努力して、もっと暖かい手足にになって差し上げるために、私たちスタッフは努力をして行かなければなりませんね。頑張ります。

最後に、新年会が無事に終わるように助けてくださった理事長を始め、すべての関係者の方々にもう一度深く感謝します。カムサハムニダ！（スタッフ 呉景淑）

■■■ 今後の予定 ■■■

■ KFC研修会

5月9日（土） 14:00～15:30

「子どもの日本語教育」

村山勇（本山第二小学校、灘わくわく会）

於 デイサービスセンターハナの会

■ 日本語能力検定試験 2級合格目標クラス

3月7日（土）～6月27日（土） 13:15～16:15

■ KFC中学生卒業祝いを兼ねたお花見

4月5日（日）

■ 日本語ボランティア養成講座

（初心者コース）

5月16日（土）～10月17日（土）

13:30～16:00 於 アスタくにつか4番館

■ ハナの会 お花見

4月1日、3日（日）